



総務省

「電波政策ビジョンセミナーを開催」 -2020年以降の電波の一層の有効活用と利用の拡大-



近畿総合通信局は、1月21日、大阪歴史博物館で「電波政策ビジョンセミナー」を開催いたしました。



総務省総合通信基盤局電波部 田原 康生 電波政策課長

電波は、テレビ・ラジオ・携帯電話など普段の生活に利便性をもたらすばかりではなく、緊急時・非常時・災害時に私たちの命を守るための情報伝達手段として欠かすことの出来ない有限な資源です。

総務省としては、電波の将来をしっかりと見据えて、必要な選択を行っていくため、電波施策ビジョン懇談会を開催し、昨年12月に報告書を取りまとめたところです。

本セミナーでは、まず、総務省総合通信基盤局電波部 田原 康生 電波政策課長から、「電波政策の最新動向と今後の展望」と題し、2020年代に向けた新たな周波数割当ての目標等を内容とする、電波政策ビジョン懇談会最終報告書の概要についての講演がありました。

続いて(株)NTTドコモ 先進技術研究所5G推進室 室長 中村 武宏氏からは、「2020年代の展望と5Gコンセプト」の演題で、第5世代移動通信システムに向けた多種にわたる、新たな技術開発の提案、標準化に向けたタイムプランと日本が取り組むべきものについてお話されました。

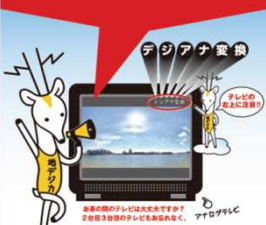
最後に、日本電気株式会社 中央研究所クラウドシステム研究所 主任研究員 菅原 弘人氏からは、「全てのモノがワイヤレスでつながるM2Mネットワークの拡大」と題し、無線の新たな利用形態と課題、これを解決する新技術について、また標準化についての最新動向について講演されました。

今回のセミナーが、さらなる電波の有効な活用となり、地域経済の発展につながっていくことになればと考えております。



(株)NTTドコモ 先進技術研究所 5G推進室 室長 中村 武宏氏
日本電気株式会社 中央研究所 クラウドシステム研究所 主任研究員 菅原 弘人氏

ケーブルテレビのデジアナ変換サービスは2015年3月までに終了します



ケーブルテレビの デジアナ変換サービスは 2015年3月までに 終了します

引き続き地上デジタル放送をご覧いただくために地デジの準備をお願いします。

お問い合わせは
総務省地デジコールセンター
0570-07-0101



編集・発行

近畿総合通信局
総務部総務課
企画広報室

〒540-8795

大阪府中央区大手前1-5-44

大阪合同庁舎第1号館

TEL: 06(6942)8508

<http://www.soumu.go.jp/soutsu/kinki/>

第11回 南極・昭和基地だより (最終号)

第55次日本南極地域観測隊越冬隊通信担当として平成25年の12月から昭和基地に滞在の久保田 弘(くぼた ひろし)さん(元近畿総合通信局職員)から南極・昭和基地での職務の状況や生活に関する貴重な体験等をご紹介します。

「南極・昭和基地だより」は今回をもって最終号となります。

皆さま、こんにちは。

第55次日本南極地域観測隊(JARE55) 越冬隊通信担当の久保田です。

「南極・昭和基地だより」もいよいよ最終回を迎えました。最終回となる第11回目は、第56次観測隊の昭和基地到着について御紹介します。

クリスマスイブに第一便が到着

昨年(平成26年)12月24日、昭和基地まで約40キロメートルの地点に到達し定着氷に停留中の南極観測船「しらせ」から、第56次観測隊の野木義史隊長、しらせの日高孝次艦長らに乗せた海上自衛隊のヘリコプター第一便が昭和基地に到着しました。昨シーズンに比べて10日遅い到着でした。



牛尾第55次越冬隊長(右)に初荷を手渡す野木第56次観測隊長(左)と日高しらせ艦長(中)

しらせは、昨年11月11日に東京港を出港し、途中、オーストラリアのフリーマントル港で第56次観測隊員と同行者に乗せ、一路昭和基地を目指して進んできました。

第一便では、待ちに待った新鮮な生野菜や果物、生卵などのほか、家族からの手紙やビデオメッセージも届けられました。奇しくもクリスマスイブに届けられたクリスマスプレゼントのようでした。

昭和基地への食糧や燃料、物資の補給は、毎年1回しらせが到着したときだけしかありません。冷凍された食材は一年を通して豊富にあるのですが、冷凍できない果物や生卵などは直ぐに底をついてしまいます。ですから、

日本では何気ない果物や生卵であっても、越冬終盤を迎えた観測隊員にとっては御馳走なのです。



第一便で届けられた新鮮な果物と生卵

しらせは、人員及び優先物資の空輸を終えた後、砕氷航行を再開し、1月12日、昭和基地沖に接岸しました。接岸後には、燃料のパイプライン輸送、ヘリコプターによる食糧や物資の空輸、雪上車によるコンテナの氷上輸送などが行われました。



昭和基地沖に接岸した南極観測船「しらせ」
(国立極地研究所WEBサイトから転載)

第56次観測隊との越冬交代を迎えるにあたって

私が昭和基地に到着したのは、一昨年(平成25年)の12月14日でした。早いもので到着してから既に1年1か月の歳月が流れ、越冬生活も残り僅かになりました。

昭和基地に到着した当初は、通信の内容を一言も聞き漏らすまいと非常に緊張して通信を行っていましたが、さすがに最近では落ち着いて通信できる余裕が出てきました。

越冬中、無線設備の故障も相次ぎました。車載型・携帯型無線機をはじめインマルサット衛星通信設備、短波帯送信機、ロンビックアンテナなどの故障には相当悩まされました。しかし、苦勞して修理できたときの感激はいまでも忘れることができません。



通信室にて

仕事以外では、野生のペンギンやアザラシとの遭遇、そしてオーロラ、白夜、極夜、ブリザードなど通常では滅多に体験できないことをたくさん体験することができました。

昭和基地での生活は、楽しいこともたくさんありましたが、その一方で辛いこともたくさんありました。暇(まぶた)を閉じれば一つ一つの出来事がまるで走馬灯のようによみがえってきます。

大きな怪我や病気をすることもなく、これまで任務を遂行してこれましたのも、ひとえに国内で支えていただきました多くの皆さまのおかげです。特に、企業・行政の垣根を超えて、技術的なことをいろいろとアドバイスしていただきました皆さま、本当にありがとうございました。紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

私の後任となる第56次観測隊の通信隊員との業務の引継ぎもほぼ終了しました。まだ越冬交代したわけではありませんので、気を緩めるわけにはいきませんが、第54次観測隊から託された通信隊員の襷(たすき)をなんとか無事に第56次観測隊につなぐことができそうです。

第56次観測隊の通信隊員は、北海道総合通信局出身の戸田仁隊員です。戸田隊員は、第48次観測隊に続いて2度目の越冬です。

ちなみに歴代の通信隊員は、旧郵政省・総務省のほか、海上保安庁、日本電信電話(NTT)、放送事業者、無線機メーカーなどから派遣されています。

第55次観測隊の今後の予定としては、2月上旬に第56次観測隊と越冬交代した後、しらせに帰艦します。その後、しらせは海洋観測などを行いながらオーストラリアのフリーマントル港を目指して航海を続けます。フリーマントル港到着後、第55次観測隊は、しらせよりも一足お先に空路で日本に向かいます。日本帰国は、3月21日の予定です。

終わりに

これまで「南極・昭和基地だより」を御愛読いただきまして、ありがとうございました。

皆さまには、もっともっとお伝えしたいことがあるのですが、限られた紙面では十分にお伝えすることができません。国立極地研究所のWebサイトに昭和基地での出来事を御紹介している「昭和基地NOW!!」というページがあります。興味のある方は、是非御覧になってみてください。観測隊のことをより詳しく知っていただけでいいでしょう。

[昭和基地NOW!!]

<http://www.nipr.ac.jp/jare/now/list55.html>



越冬隊の仲間とともに（後列左から4人目が筆者）

それでは、この辺りでペンを置くことにいたします。皆さま、さようなら。

平成27年(2015年)1月22日
南極・昭和基地 通信室にて



JARE55は、「The 55th Japanese Antarctic Research Expedition」の略。

[国立極地研究所] <http://www.nipr.ac.jp/>

[国立極地研究所 南極観測のホームページ] <http://www.nipr.ac.jp/jare/index.html>